

子どもたちの確かな人権感覚

小・中学生の人権標語から

益城町教育委員会では、町

内の小・中学生から人権標語を募集しました。人と人との

心のつながりを大切にしたい数多くの作品が寄せられました。

子どもたちが発する短い言葉の中には、熱い思いが出ており、心に響くものがあります。

そのような作品の中から、

いじめや差別を見抜く感性、いじめや差別をなくそうとする強い意志と実践力、他を思いやる優しさ、人権問題を自分のこととして受け止める人権感覚、心がつながり合う社会をつくりあげていこうとする意欲、などに満ちている作品を優秀作品として選びました。

一つ一つの作品をじっくり読んで、子どもたちの思いを心で受け止め、「大人も子どももみんなが輝く益城町」を

実感できるいじめや差別のない明るい社会づくりに努めましょう。

【特選】

●「ごめんね」「いいよ」

言えたら

ほらね なかなおり

(小2)

●ことばにだそう

大きなこえで

ありがとう

(小2)

●ぼくはせん

ぼくがされて

いやなこと

(小2)

●「ママ、うんでくれてありがとう。」

「ぼくは、生まれてよかったよ。」

たよ。

うれしい言葉は

ふわふわ言葉

悪い言葉は

とげとげ言葉(小3)

(小4)

●てをつなごう

あなたのぬくもり

つたわるよ

(小4)

【入選】

●「かーてーて」

ゆうきのことは

とどいたよ

(小1)

●「あそぼうよ。」

ひとりである子に

声をかけて

よくきいて

なっている子の

こえがする

悪口は

人と人とを

切る言葉

みないふり

人は傷つく

(小1)

●だれかがね

とめなきやいけな

いじめのルート(小4)

●なんでなの

自分がされたら

いやなのに(小5)

●つたえよう

自分の気持ち

はつきりと(小5)

●友達は

みんなの大事な

たからもの(小5)

●やさしい手

その手をずっと

まっていたよ(小5)

●あいさつは

君とぼくとの

パス交かん(小5)

●みんなだね

ひとりぼっちを

なくそうよ!(小6)

●差別をしない意識から

差別をなくす行動へ

どうしたの?(小6)

●そのひとことで

ほっとする(小6)

●「大じょうぶ?」

心のぎずを

消す言葉(小6)

●いじめても

いじめられても

残るきず(小6)

●その態度

君がされたら

どう思う?(小6)

●家族から

もらった命

大切に(中1)

●友達は

お金で買えない

宝物(中1)

●誰だって

みんなだれかの

宝物(中2)

※特選は、役場や公民館、文化会館前に掲示します。

益城町教育委員会